

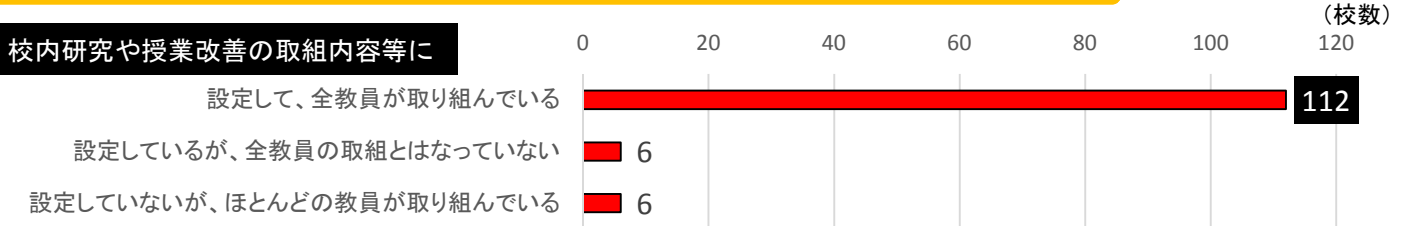
# 平成30年度「中学校学力向上対策3つの提言」に係る取組状況等調査結果

## 調査の概要

- 調査目的 「中学校学力向上対策3つの提言」の実施状況を把握し今後の施策に生かす。
- 調査対象 県内市町村立中学校・義務教育学校後期課程：124校
- 調査期間 平成30年6月12日～7月13日

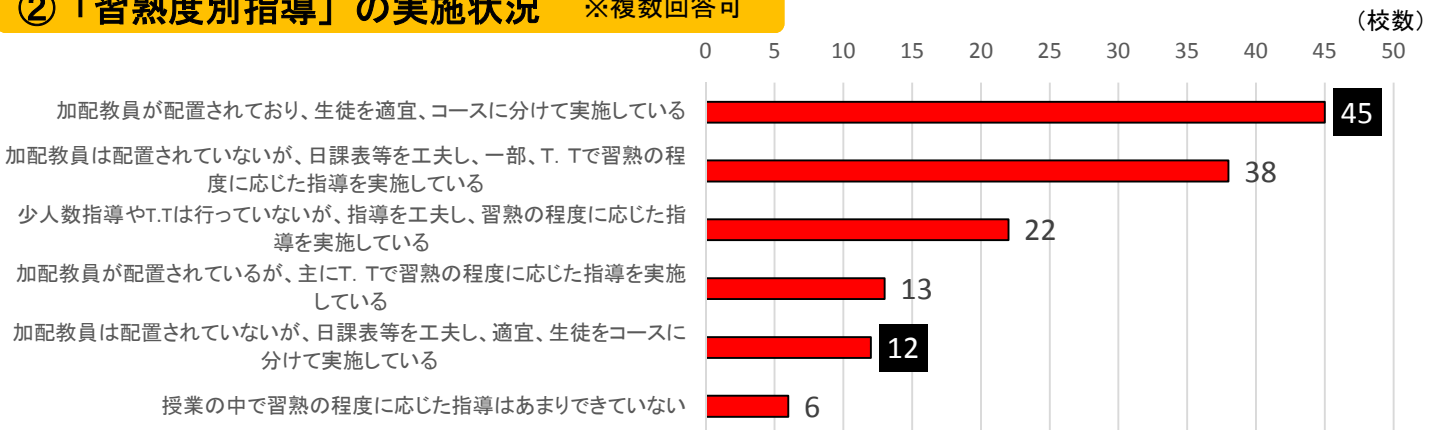
## (提言1) 「学校の組織的な授業改善による『新大分スタンダード』の徹底」

### ①生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の授業（新規）



- 「設定して、全教員が取り組んでいる」と回答した学校は、112校（90.3%）である。  
【参考】H29生徒指導の三機能88%, H29問題解決的な展開の授業：81%

### ②「習熟度別指導」の実施状況 ※複数回答可



- 「（加配教員の有無に関わらず）生徒をコースに分けて実施している」と回答した学校は、57校（46%）であり、昨年度と比べると少し増加している。  
【参考】H29：41.6%

### ③互見授業や授業研究の実施予定 ※「全ての教科に共通した授業改善の取組内容」について

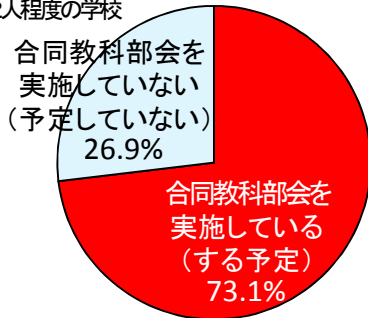


- 教員一人あたりの実施回数の割合は、「学期に1回」が56校（45.2%）と一番を多く、昨年度とほぼ同じ状況である。  
【参考】H29：44.8%

## (提言2) 「学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築」

### ① 近隣校との合同教科部会の実施

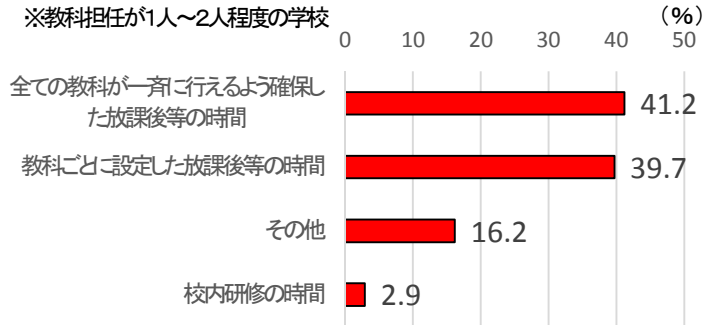
※教科担任が1人～2人程度の学校



■ 77校が「教科担任が1人～2人の学校」と回答。そのうち、近隣校との合同教科部会を実施(予定有り)している学校は、57校(74%)であり、昨年度より少し増加している。【参考】H29: 70%

### ② 合同教科部会を実施する時間

※教科担任が1人～2人程度の学校



■ 「その他」と回答した学校(抜粋)

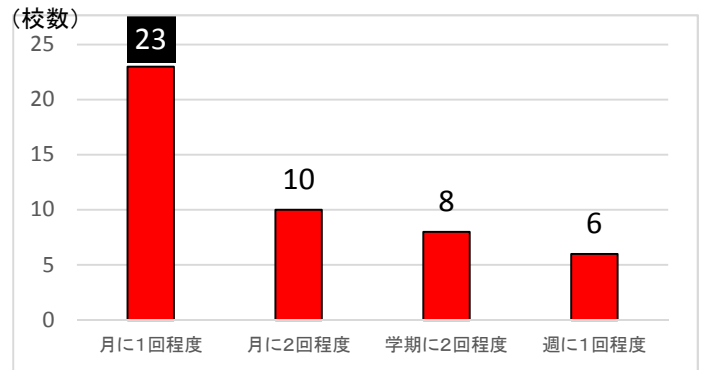
- ・ 「3提言」推進重点校と連携して実施。
- ・ 互いの互見授業週間に参観授業を実施。
- ・ 公務用共有ネットを利用して情報共有を図る。

### ③ 教科部会の実施頻度

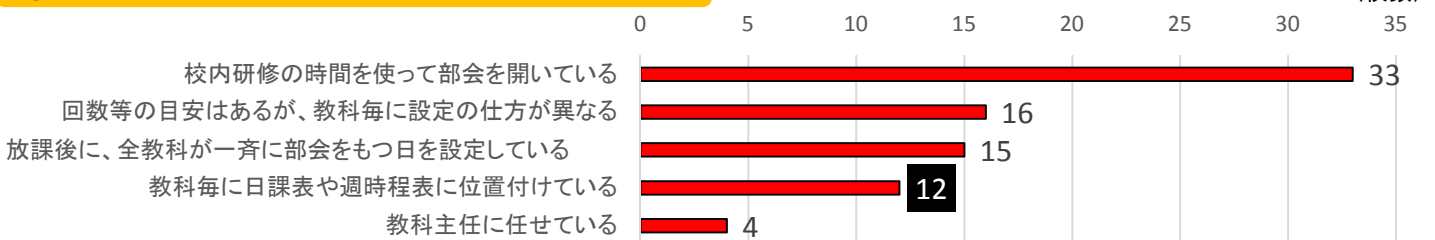
※複数の教科担任がいる学校

■ 47校が「複数の教科担任がいる学校」と回答。そのうち、「月に1回程度」教科部会を実施する学校は、23校(48.9%)で一番多い。

■ 「原則、月1回の実施」だが、数学や英語のみ週1回など、教科によって実施頻度が異なる学校もある。

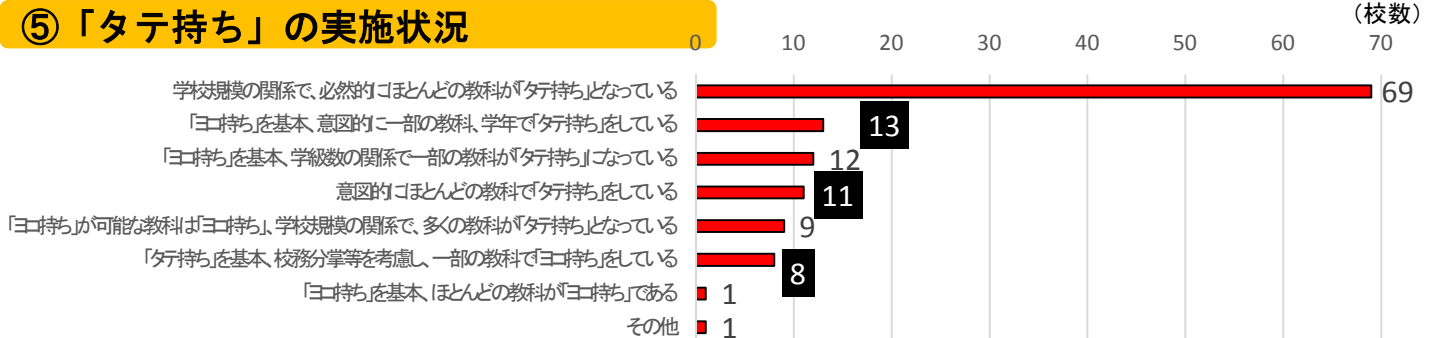


### ④ 教科部会の設定状況 ※複数回答可



■ 教科部会を、「教科毎に日課表や週時程表に位置付けている」学校は12校あり、昨年度とほぼ同じ状況である。【参考】H29: 13校

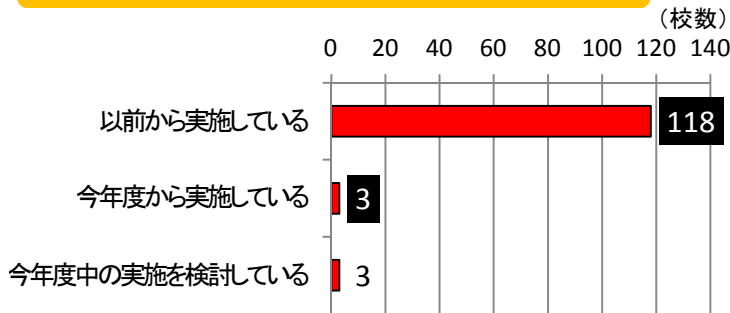
### ⑤ 「タテ持ち」の実施状況



■ 意図的に「タテ持ち」を実施している学校は、32校(25.8%)であり、昨年度と比べ少し減少している。【参考】H29: 28%

## (提言3) 「生徒と共に創る授業の推進」

### ①生徒による「授業評価」の実施



■「授業評価を実施している」学校は、121校（97.6%）であり、昨年度よりも増加している。  
【参考】H29:84%

### ③授業改善に生かされているか



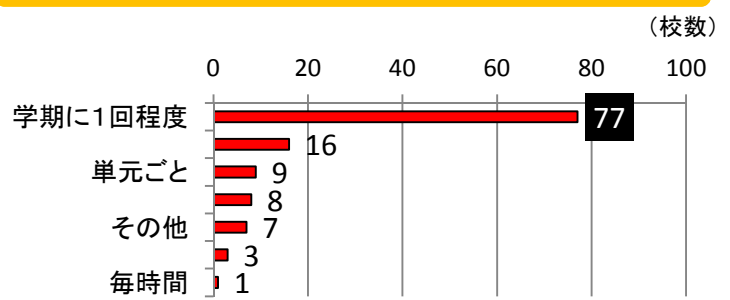
■生徒による「授業評価」が、授業改善に「（どちらかといえば）生かされている」と回答した学校は、118校（97.5%）であり、昨年度よりも増加している。【参考】H29:87.9%

### ⑤生徒の学習意欲の向上（新規）



■「授業評価」を生かした授業改善により、「生徒の学習意欲が（どちらかといえば）向上した」と回答した学校は、117校（99.2%）である。

### ②生徒による「授業評価」の実施頻度

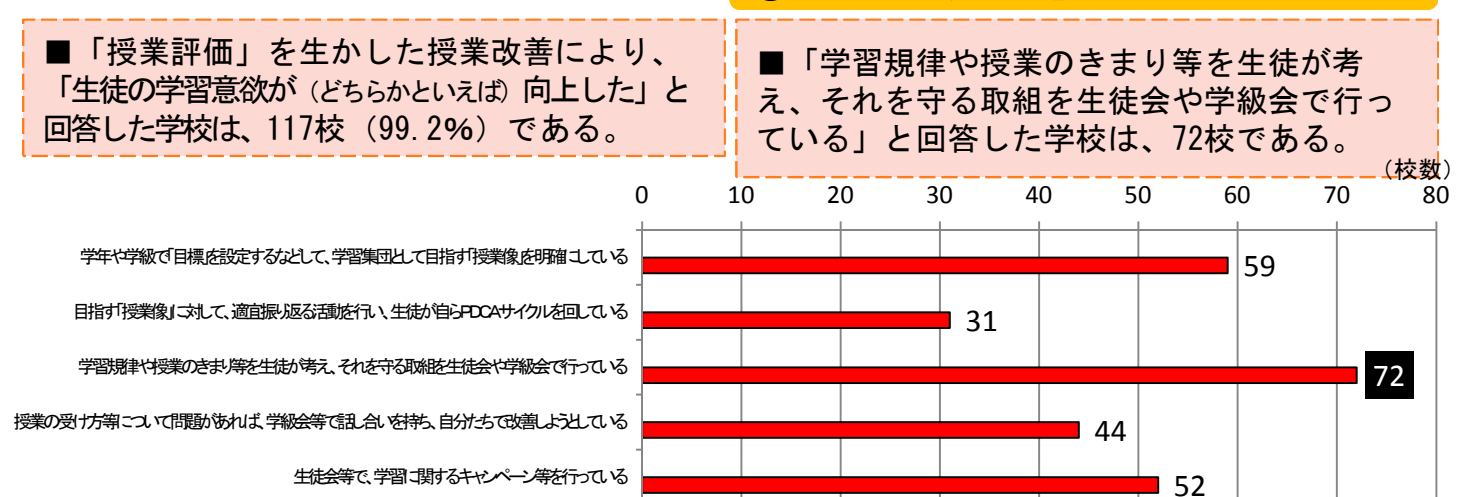


■「学期に1回程度」実施している学校が、77校（63.6%）で一番多い。【参考】H29:60.3%  
■「その他」と回答した学校（抜粋）  
・定期テスト後に実施（年5回）。  
・互見授業の際に授業評価を実施。  
・時期や回数を検討中。

### ④どのような授業改善につながったか

■学校からの回答（抜粋）  
・生徒が「わからない」「難しい」等の困りを感じている授業内容を改善していくことで、全員が「わかる」と感じる授業づくりを行えた。  
・生徒側と教師側の意識のズレが明確になり、生徒の欲している活動を取り入れたり、教師の思いをわかりやすく伝えたりすることによって、授業改善につながっている。  
・各教室における合理的配慮の必要性が確認され、全体で共通理解の上、校内の授業改善の取り組みに取り入れた。  
・生徒の実態を学年、クラスで把握することで、授業展開や課題内容、定期テストの内容に反映している。

### ⑥目指す「授業像」の追求 ※複数回答可



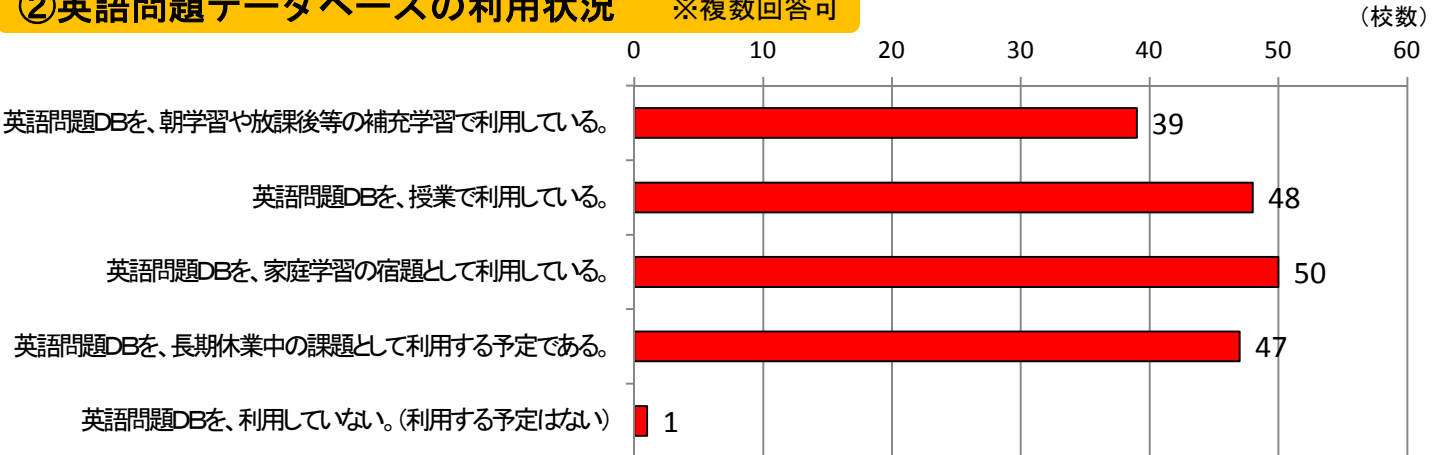
■「学習規律や授業のきまり等を生徒が考え、それを守る取組を生徒会や学級会で行っている」と回答した学校は、72校である。

# 数学問題データベース・英語問題データベースの利用状況について

## ① 数学問題データベースの利用状況 ※複数回答可



## ② 英語問題データベースの利用状況 ※複数回答可



## 【参考】平成29年度「3つの提言」に係る取組状況等調査結果<抜粋>

### 「タテ持ち」による生徒や教員等の変化や効果(抜粋)

#### <学校>

- 教科部会での話し合いが活性化した
- 指導力のアップにつながった
- 若手教員への指導・助言が行えた
- 学年に対する指導を多方面から実施できる
- 教員同士の情報交換・コミュニケーションが増えた
- 同じ進度が保てる

#### ◇意図的に「タテ持ち」を導入した理由

- 人材育成、若手教員の指導技術の向上

### 「タテ持ち」のマイナス面や実施上の困難、配慮事項等(抜粋)

#### <学校>

- 情報交換の時間の確保が難しい
- 出張や行事が入ると、時間割の変更や進度の調性が難しい
- 3学年担当している教員は、教材研究や授業準備の負担が大きい
- 学年部の体制を整えることが大切であり、「タテ持ち」は実施可能な範囲で実施すべき

#### <教育委員会>

- 教科担当の打合せの時間の確保
- 出張等による日課表の調整
- 学校規模の関係上、「意図的なタテ持ち」がより難しい
- 教員の十分な理解を得る必要がある